

2013年 9月議会本会議最終日の討論
津幡町議会議員 中村 一子

「米軍新型輸送機オスプレイの配備撤回と低空飛行訓練の中止」を 国に求める請願に対し賛成の討論

わたしは請願第10号「米軍新型輸送機オスプレイの配備撤回と低空飛行訓練の中止」を国に求める請願に賛成の立場で討論します。

昨年9月、10万人を超える沖縄県民大会が示したものは、「オスプレイ配備計画の撤回と、普天間基地の閉鎖・撤去」を求める沖縄県民の強い思いでした。沖縄のこのような思いをわたしたちは無視できるのでしょうか。

わたしがこの請願に賛成する第一の理由は、政治的などんな理由であれ、歴史的などんな理由であれ、今のままではオスプレイ配備によりアメリカ海兵隊が固定化され、沖縄がこれからも米軍の基地とされてしまう恐れがあるからです。

そしてこの請願に賛成する第二の理由は、沖縄以外でもオスプレイの低空飛行ルートが想定されて、実際に全国各地で低空飛行訓練が実施されていることということです。ハワイでもフロリダでも、環境破壊に繋がるということで飛行が中止されたオスプレイが、日本では環境アセスメントすら開かれないのはどうしたことなのか。米軍が、日本国内で、低空飛行することが許されるのか。

ついこの間、9月6日のことですが、滋賀県高島市の「陸自あいはの演習場」の日米共同訓練でオスプレイが使われることが正式に発表されています。それに対し9月29日には「オスプレイ来るな！日米合同軍事演習反対」の集会が計画されているそうです。津幡町には演習場などありませんが、仮に津幡町の上空をオスプレイが飛び、米軍による軍事訓練がなされるということになれば、反対する市民の気持ちが理解できるはずです。

そしてこの請願に賛成する第三の理由は、アメリカはルールを無視して訓練しているという現実です。たとえば、徳島県の飯泉嘉門知事は、徳島県内で低空飛行を行わないことやルートの情報提供などについて防衛省を通じて要請していたにもかかわらず、今年3月、当初九州上空だったルートが突然、和歌

山～四国上空に変更されて、オスプレイの低空飛行訓練が実施されたことに対し「強行は誠に遺憾」として知事名の要請書を小野寺防衛相に改めて送っています。また戦闘機が日米地位協定で義務付けられた事前報告がないままに夜間飛行・低空飛行訓練で上空を飛ぶことが何度もあります。鳥取県の平井伸治知事も、日本政府が公式に認めないオスプレイの飛行ルートがあると指摘したうえで「夜間や低空飛行といったルール違反は現実にある。訓練のあり方が日米間で正常化されていない」と声を上げています。全国7ルート、高度150メートル以下の低空飛行訓練やルールを無視した米軍の飛行訓練について、日本政府は、アメリカ政府に対し中止を求めるべきです。

この請願について、賛成か反対かと問われれば、以上の理由からわたしは賛成します。